

第1章 基本理念と目標

1. 基本理念

スポーツを通じて「共生のまち」を支え、 未来へつなぐ札幌型施設環境の実現

変化する社会情勢の中にあっても、市民の誰もが将来にわたって、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、それぞれの関心、適性、目的などの違いに応じてスポーツに参画し、スポーツが持つ力で心身ともに健康で文化的な生活を支え、豊かな未来を創ることができる、持続可能な札幌型の施設環境の実現を目指します。

2. 目 標

2-1. 目 標

目標 1

持続可能な施設配置の実現

人口減少・超高齢社会^{※2}の進展、既存施設の更新時期が一斉に到来すること等に対応する、持続可能な施設配置を実現

目標 2

多様性のあるスポーツ環境の実現

市民の誰もが、スポーツに参画できる、多様性のあるスポーツ環境を実現

基本理念の実現に向けた、具体化すべき取組の方向性として、2つの目標を設定します。

今後のスポーツ施設の配置活用にあたっては、人口減少・超高齢社会^{※2}や、一斉に訪れる既存施設の更新対応など、様々な社会情勢の変化に適切に対応していくことが必要です。

一方で、そうした環境の中にあっても、市民の誰もが自発的にスポーツに取り組むことができる、多様性のあるスポーツ環境を実現していくことが必要です。

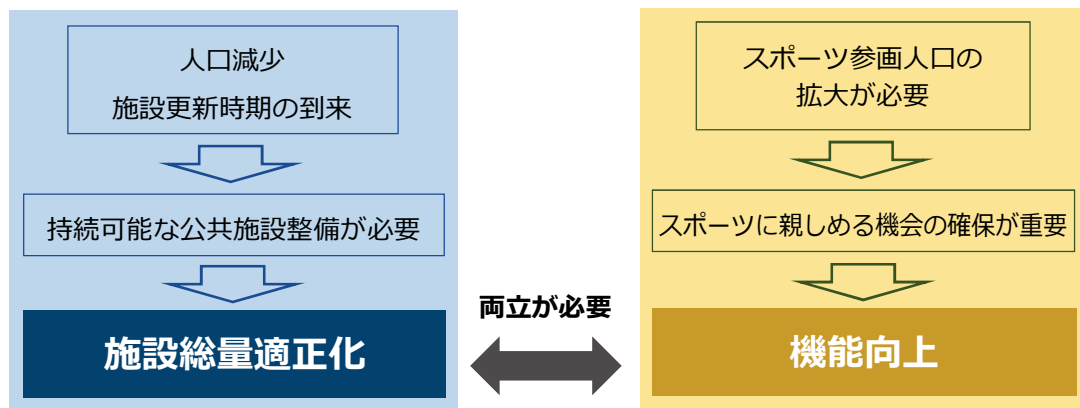
※2 【超高齢社会】…総人口に占める65歳以上の人口割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ。

2-2. 目標実現に向けた考え方

今後、人口減少・超高齢社会^{※2}や、一斉に訪れる既存施設の更新対応など、様々な社会情勢の変化に対応していくためには、将来の需要に見合った適正な施設総量とすることが必要です。

一方、市民の誰もが、自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、健康で生き生きとした、前向きで活力ある社会としていくためには、スポーツに親しめる機会を確保することが重要です。

こうしたことから、今後は、市所管スポーツ施設の「施設総量適正化」と、市民がスポーツに参画する場の「機能向上」を進め、この2つの異なる課題への対応を両立させながら、将来にわたって、市民がスポーツに取り組める、持続可能な施設環境を整えていきます。



2-3. 取組にあたっての視点

「施設総量適正化」と「機能向上」の両立に向けては、公園、学校、コミュニティ施設^{※19}や民間施設などの類似施設も含め考えていきます。

市所管スポーツ施設は、競技大会やプロスポーツの試合開催など、高機能が求められる競技性の高い利用に対応できる施設であり、こうした利用は一部を除いて他の施設で担うことは困難です。

一方で、日常的な健康・運動づくり機能は、市民に身近な類似施設が担うことが可能です。

こうした類似施設の多くは、既に市民がスポーツに参画する場として活用されていますが、スポーツをする機会の総量を増やすため、更なる活用・連携の強化に取り組み、市所管スポーツ施設も含めた総体として「機能向上」を図ることを目指します。

そのうえで、具体的な施設配置について、人口動態や市民ニーズ等の社会情勢を踏まえ、慎重に検討しながら、これまでの配置基準を見直すなどにより、「施設総量適正化」を進めていきます。

<各施設が有する機能>

- 市所管スポーツ施設：競技大会やプロスポーツの試合開催等に対応する高度な競技機能
- 類似施設：日常的な運動・健康づくり機能（一部、公園施設を除く）

※2 【超高齢社会】…総人口に占める65歳以上の人口割合が21%を超える社会のこと。なお、7%以上14%未満を「高齢化社会」14%以上21%未満を「高齢社会」と呼ぶ。

※19 【コミュニティ施設】…区民センター、地区センターなどの地域施設。

<“施設総量適正化”と“機能向上”の両立に向けた考え方>

①効率的・効果的な施設整備

- ・市所管スポーツ施設の更新等にあたっては、利便性の高い場所での施設集約や、他施設との役割分担を明確化し機能重複を避けるなど、施設種別ごとの状況を踏まえ、効率的・効果的な施設整備を検討

②運営方法の工夫

- ・早朝や夜間等を含めた利用時間の拡大など、施設を更に活用するための運営方法を検討

③代替の機会の確保

- ・類似施設について、本来目的で使われていない曜日、時間帯、スペース等の更なる活用を検討

<スポーツに参画する機会の総量イメージ>

